

# 被災地派遣レポート〈第34回〉

青少年・治安対策本部総合対策部治安対策課治安対策主査 佐々木 健さん

## ■はじめに

9月28日から10月5日までの7泊8日、福島県福島市への第20陣として被災地支援に従事して参りました。

たった1週間という短い時間ではありましたが、現地でしか体験できない貴重な経験となりましたので、レポートさせていただきます。



福島県庁裏手を流れる阿武隈川



県庁から福島駅方向の風景

## ■従事内容について

福島県庁西館4階の土木部建築住宅課の応急仮設住宅チームに配属となりました。このチームは、県職員3名と都職員2名の計5名の編成でした。

このチームにおいて、我々都職員が担当したことは、県下各自治体の応急仮設住宅と借上げ住宅の入居状況（入居戸数や入居人数等）に関する情報収集とそれを基にしたマスコミ発表用の資料作成です。

情報収集は、毎日欠かさず（土日も）実施しました。電話でのやりとりがメインですが、FAX やメールでのやりとりもありました。

各自治体の避難先は多いところだと数十箇所にもあり、各団地で日々入居状況が変動しております。例えば、浪江町の避難先だけでも県内にたくさんあり、その中で福島市内の避難先だけでも数箇所ありました。それらの詳細な情報まで確実に把握・収集します。

そういった各自治体の入居状況を取りまとめ、エクセルを使って資料を作成していきます。

それ以外には、厚生労働省や国土交通省からの突発的な各種調査依頼がくるので対応します。例えば、避難先の仮設住宅団地において自治会は立ち上がっているのか、といったような内容がありました。

仮設住宅はプレハブでシンプルな概観です。世帯の人数により間取りも違います。各団地に駐車場と集会場が設置されています。



福島市内の森合仮設住宅（3棟計18戸）



仮設住宅のガスはプロパンです



案内板



集会場（談話室）

### ■最後に

福島は、放射能の影響が強いため、復興には時間を要しますが、そこで暮らす県民は、全てを受入れ、粘り強くたくましい毎日を送っています。

他県庁において他県庁の職員と一緒に仕事をするだけでも良い経験になりますが、現地で復興に直接従事できることは言葉にできない充実感があります。

最後に、私の希望であった被災地派遣を快く認めてくれた青少年・治安対策本部の方々に感謝の意を表します。